

「延岡市一般廃棄物処理施設整備事業の基本方針（案）」への意見募集／意見の概要と本市の考え方

○意見募集期間：令和6年4月5日（金曜）～令和6年4月25日（木曜）

○結果：提出者11人（うち無作為抽出者9人）、意見18件

No.	意見の分類	意見の概要	本市の考え方
1	整備方針	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模災害に備えるため廃棄物処理施設の強靱化 ・各施設の老朽化に伴う施設の整備 <p>全て必要な事業で、概要をみただけですが、すばらしいことと思います。いつもお世話になっている市民としましては、ぜひぜひ取り組んでほしいし、問題なく竣工することを願っています。</p>	<p>清掃工場については現施設の改修により施設の強靱化と延命化を図り、また、粗大ごみ処理施設とゲン丸館については施設の老朽化に伴う複合での建替え（強靱化含む）を行うことにより、今後も安定したごみ処理や資源化に努めてまいります。</p>
2		<p>日頃より清掃工場様方々大変御苦勞様です。ありがとうございます。</p> <p>さて、結果としまして、資料を読みました複合での建替（ケース2）にほぼ賛成です。老朽化も進み今震度7などの災害にみまわれると清掃工場自体が機能できなくなる事態になりかねません。早目の建替が必要だと感じました。</p>	<p>粗大ごみ処理施設とゲン丸館の整備方針については、①全体事業費が抑えられ、市の財政負担の面で優位であること、②リサイクルの推進や施設運用の面で優位であること、③施設配置や実績の面からも優位であることから、複合での建替（ケース2）を基本方針としています。</p> <p>今後、南海トラフ巨大地震などの大規模災害の発生が想定されていることから、清掃工場の強靱化と粗大ごみ処理施設及びゲン丸館の複合での施設整備について、早期完成を目指して、計画的に事業に取り組んでまいります。</p>
3		<p>ケース1と比べ、ケース2の方が全体的なメリットが多く、デメリットが少ないため、ケース2の方針に賛成です。ケース1に比べて事業費を抑えられるということや、複合での建替のため同じ建物の中で効率良く作業が行えるということも良いと思いました。</p>	
4		<p>特に古くなったと思いません。新設することに金のかかる方が心配になります。</p>	<p>粗大ごみ処理施設は稼働開始から現在40年目、ゲン丸館は現在28年目で、いずれの施設も全国の類似施設の平均供用年数を大きく超えて稼働している状況です。これまでは適切な維持管理や機器補修等により施設性能の維持を図ってまいりましたが、施設全体の老朽化や周辺の地盤沈下が顕著となり、年々施設のトラブルや事故のリスクが高まってきております。また、清掃工場についても、原則24時間運転であることから一般的な耐用年数は20年程度と言われており、現在16年目を迎える中、こちらも建替えや延命化を検討する時期となっております。</p> <p>さらに、今後想定される南海トラフ巨大地震などの大規模災害では、浸水等により廃棄物処理施設が稼働不能とならないよう、施設の強靱化を図ることも重要な課題です。</p> <p>このようなことから、粗大ごみ処理施設とゲン丸館については施設の老朽化に伴う複合での建替え（強靱化含む）を実施し、また、清掃工場については施設の強靱化と延命化を図り、今後も安定したごみ処理や資源化に努めてまいります。</p> <p>事業の実施にあたりましては、多大な事業費が必要となることから、国の交付金制度や交付税措置のある有利な起債を最大限活用し、本市の財政負担の軽減に努めるとともに、基本設計・詳細設計においても、経費削減を念頭に検討してまいります。</p>
5		<p>処理施設の事業計画に尽力された関係者の皆様に感謝いたします。</p> <p>当該施設の建設において財政面から考えると市行政の枠を超えた広域的な施設の建設も考慮できないか。これから先を考えて自分なりの気持ちを述べましたが基本方針には賛同いたします。</p>	<p>ごみ処理の広域化については、「宮崎県ごみ処理広域化計画」に基づき広域化が進められ、本市を含む「延岡・西臼杵ブロック」においては、平成21年4月より、本市清掃工場にて本市と西臼杵郡内の3町（高千穂町、日之影町、五ヶ瀬町）による広域ごみ処理が行われております。実際に現在の清掃工場の建設費とごみ処理に要する経費は西臼杵郡内の各町にも負担していただいていることから、今回のパブリックコメントを経て、本市としての案をまとめた段階で、西臼杵郡内の各町とも協議していく考えです。</p>

No.	意見の分類	意見の概要	本市の考え方
6	大規模災害	必ず必要な施設ですので整備には賛成です。南海トラフの際、町中にゴミがそのままにならないよう、津波対策が万全の施設にして欲しいです。	大規模災害時には、大量に発生する災害廃棄物や通常の生活ごみを安定して処理することが極めて重要です。本市の廃棄物処理施設においても、継続して廃棄物の処理を行うためには、施設の強靱化を図ることが求められています。
7		<p>巨大地震が想定される今日、災害後のごみの山をTVで観る度に、又、最近の多発地震に不安を感じています。施設整備事業方針案に賛成致します。</p> <p>(1) 清掃工場－大規模改修 緊急避難場所となっているので、早く取り組んでほしい。</p> <p>(2) 粗大ごみ・ゲン丸館－複合建替</p> <ul style="list-style-type: none"> ・耐震強化の対策 ・重要な機器が設置されているエリア入口の防水扉 ・景観を損ねない程度の高上げ ・防潮堤（敷地が広いので出来るかわからないが） 	<p>清掃工場については、建設時に高上げを行っておりますが、さらに防水扉等の設置による浸水対策や地震対策などの現施設の改修を、また、粗大ごみ処理施設とゲン丸館については建替の際に浸水想定深を考慮した高上げや必要な対策を行い、施設の強靱化を図ってまいります。</p> <p>なお、施設の強靱化の詳細につきましては、今後の基本設計等において改めて検討いたします。</p>
8		<p>2011年の東日本大震災、2016年の熊本地震、そして今年1月の能登半島地震と日本列島で地震が続いている。宮崎県は1968年の日向灘地震以来小規模な地震は続いているが、大きい地震は幸い起きていない。しかし、将来南海トラフ大地震が予想されている。宮崎県も大きな被害を受けることが予想されている。従って、これに対する備えを準備していく必要がある。テレビをみていると、地震が起きて復興の妨げになっているのが地震で発生する粗大ごみの始末である。従って、この粗大ごみの素早い始末が復興の鍵となる。</p> <p>提案案件について、</p> <p>(1) 清掃工場における整備方針について (ケース1)の金額約81.6億円が(ケース2)の約270.6億円に比して189億円も安く、(ケース1)がベターだと思う。但し、震度7～8(※)の地震でも耐えられるような構造に強靱化する必要がある。</p> <p>(2) 粗大ごみ処理施設とゲン丸館について (ケース1)の金額約61.5億円が(ケース2)の約53.3億円に比して8.2億円高いが、(ケース1)がベターだと思う。但し、震度7～8(※)の地震でも耐えられるような構造に強靱化する必要がある。</p> <p>※気象庁の震度階級では、最大で「震度7」までです。(本市追記)</p>	<p>耐震化については、現行の建築基準法では、「中規模の地震(震度5強)に対しては、ほとんど損傷を生じず、極めて稀にしか発生しない大規模の地震(震度6強から震度7程度)に対しても、人命に危害を及ぼすような倒壊等の被害を生じない」ことを目標とした基準となっており、建築基準法やその他基準に基づいた廃棄物処理施設の整備を行ってまいります。</p> <p>(1) 清掃工場の整備方針については、①事業費を大幅に抑えつつ、施設の強靱化と延命化の両方を実現することが可能であること、②建物本体(躯体)については堅牢な状態であること、③災害対応をより早期に行うことができること、④一般的には延命化が実施されていることなどから、大規模改修(ケース1)を基本方針としています。</p> <p>また、(2) 粗大ごみ処理施設とゲン丸館の整備方針については、単独での建替(ケース1)の場合、2つの施設の整備時期をずらすことで財政支出が分散される(一時的な財政支出の抑制)というメリットがある反面、整備期間が長くなることに伴い、将来予想される南海トラフ巨大地震による施設の浸水リスクも長期にわたり続くというデメリットがあります。そのため、①全体事業費が抑えられ(8.2億円安い)、市の財政負担の面で優位であること、②リサイクルの推進や施設運用の面で優位であること、③施設配置や実績の面からも優位であることから、複合での建替(ケース2)を基本方針としています。</p>

No.	意見の分類	意見の概要	本市の考え方
9	大規模災害	毎日の仕事お疲れ様です。有難うございます。資料読ませて頂きました。 東日本大震災クラスの地震が発生した時、一滴の水も施設へ流入させない為にも現在の位置より15m～20m位高位置に建設が必要な気がします。	内閣府「南海トラフ巨大地震モデル検討会」による南海トラフ巨大地震・津波の想定に、宮崎県独自モデルである日向灘地震・津波（いずれも地震の規模はマグニチュード9.1）の想定結果を加えた「延岡市津波ハザードマップ（令和3年12月改訂）」によりますと、南海トラフ巨大地震などの大規模災害によるクリーンセンターの想定浸水深は最大3mと想定されています。
10		処理施設の事業計画に尽力された関係者の皆様に感謝いたします。 防災・減災面を考えると想像を超える自然災害を踏まえて施設の建設に適した場所を検討する。これから先を考えて自分なりの気持ちを述べましたが基本方針には賛同いたします。	清掃工場は建設時に盛土による約1.2mの嵩上げを行っており、また、建物内部の主要な電気設備等については上層階に配置済みですが、強靱化の中では、大規模地震時の浸水被害を防ぐため、1.8mを超える高さの防水扉（約13箇所）を設置し、想定浸水深（最大3m）を上回る高さを確保する計画としています。 粗大ごみ処理施設とゲン丸館の建替えについても、①清掃工場の廃棄物発電による安価な電気の受給（経費削減）、ごみ処理の効率化、市民の利便性、②用地選定・用地取得等による事業期間の長期化、③用地補償・土地造成等による事業費増加などを踏まえ、現在のクリーンセンターの敷地内での建替え（複合）を基本方針とし、あわせて南海トラフ巨大地震などの大規模災害を想定した敷地の嵩上げ（約3m）などを行う計画としています。
11		清掃工場の強靱化案の防水扉等の設置について、どの程度の強度、加圧に耐えうるのか、どの程度の想定で行われるのかを示す資料も提示してほしい。	防水扉等については、清掃工場が稼働する上で必要な設備・機器等を守るために、国の指針・他市の事例・メーカーへの聞き取りなどから想定浸水深3mを超える高さを確保する（現清掃工場の建設時に約1.2mの嵩上げを行っていることから、実際には約1.8mを超える高さの防水扉を設置する）計画としています。防水扉等の具体的な強度・性能・仕様につきましては、今後の基本設計等において詳細を決定していきます。
12		廃棄物処理施設の強靱化を図る為の、想定南海トラフ巨大地震のマグニチュード？延岡市の震度？延岡市海岸での津波高さ？を教えてください。又、この強靱化対策費用は、何億円ですか？	施設の強靱化（津波対策）については、「延岡市津波ハザードマップ（令和3年12月改訂）」での津波浸水深（最大3m）をもとに検討を行っており、そのもととなるものは、内閣府「南海トラフ巨大地震モデル検討会」による南海トラフ巨大地震・津波の想定に、宮崎県独自モデルである日向灘地震・津波（いずれも地震の規模はマグニチュード9.1）の想定結果を加えたものとなっております。 また、清掃工場の強靱化対策費用は、現時点で約5.8億円（基本方針（案）4ページ目の表）を想定しております。（事業費の算出に関しましては、詳細設計や物価変動などにより変更となる場合があります）
13	事業費	延岡市の一般廃棄物処理施設は、延岡市の重要インフラのひとつであることから、経年劣化は勿論、地震や津波等の災害想定も考慮し使用継続出来る様に整備をしっかりと行う事が大切です。但し、延岡市の令和6年度予算688億円の内、歳入の市民税は、158億円（23%）と非常に苦しい状況にあり、今回の整備費用が138億円と高額である事を認識する必要があります。	清掃工場については現施設の改修により施設の強靱化と延命化を図り、また、粗大ごみ処理施設とゲン丸館については施設の老朽化に伴う複合での建替え（強靱化含む）を行うことにより、今後も安定したごみ処理や資源化に努めてまいります。 事業を実施するにあたりましては、総事業費が約134.9億円（清掃工場はケース1の大規模改修で約81.6億円。粗大ごみ処理施設とゲン丸館ではケース2の複合での建替えで約53.3億円の合計額）と高額となることから、国の交付金制度（総事業費を134.9億円とすると約32.1億円）や交付税措置（交付税措置率：50%[補助]、30%[単独]）のある有利な起債（同約86.5億円）を最大限活用し、本市の財政負担の軽減（同一般財源約16.3億円）に努めるとともに、基本設計・詳細設計においても、経費縮減を念頭に検討を行ってまいります。

No.	意見の分類	意見の概要	本市の考え方
14	その他	一般廃棄物処理施設の清掃工場、粗大ごみ処理施設、リサイクルプラザゲン丸館は、15年目、39年目、28年目との事ですが、現設備以前の処理設備は、それぞれ稼働開始して何年目で現在の設備に更新されましたか、教えて下さい。	以前の焼却施設（旧清掃工場）は、昭和60年4月から平成21年3月までの24年間稼働した後に更新しました。また、粗大ごみ処理施設とリサイクルプラザゲン丸館については、現施設以前に同施設はなく、ごみの減容化や資源化に取り組むために、当時新しく建設した施設であります。
15		今回更新する一般廃棄物処理施設は、次回それぞれ、稼働開始後何年目に設備更新（想定）となりますか、教えて下さい。	一般的に廃棄物処理施設の耐用年数は20年程度といわれていますので、稼働開始後20年目を目処として、建替えを検討することになりますが、仮に延命化を行うことになれば、さらに15～20年程度の延命化（20年+15～20年＝トータル35～40年）が図られると見込んでおります。
16		粗大ごみ処理施設の老朽化の状況にて地盤沈下とあるが、クリーンセンター全体の地盤の状態が気にかかる。地盤沈下の理由など把握されており、同施設内にて清掃工場の強靱化・延命化、粗大ごみ処理施設、ゲン丸館の建替えについてそのあたりも基本方針の決定に含まれて検討されたのか知りたい。	クリーンセンター敷地は、以前は埋立地であったため、特に粗大ごみ処理施設の周辺において経年による圧密などにより地盤沈下が起きている状況です。一方で、平成21年4月から稼働している清掃工場については、建設時に地盤改良を行っており、現在においても地盤沈下による影響はみられておりません。 粗大ごみ処理施設とゲン丸館の複合での建替えにおいては、設計段階で事前に地質調査を行い、適切な工法の選定を検討した上で、地盤沈下対策を実施してまいります。
17		我家では、家からゴミを出さないを考えています。分別方法はルールにのっとりしっかりゴミステーションに出しています。公民館役員でもゴミステーションに出された物を氏名の記入などして極力ルールを守るようながしてたものの、やはり残念な事に残るケースがあります。「ちり」のもえる物には残さいも多くあると思います。我家は残さい、いわゆる残パンになる物は畑で肥料として自家製野菜のおいしい食料にかわります。建替のケース2に、残さい処理工場みたいなのがあれば、肥料の販売もできるのかな？と。しかし、回収方法がプラ、アルミなどちがってむずかしいでしょうか？この残さいの処理が家庭でできるか？では大きくちりの出す回数もへってくると思います。我が家は普通の家庭よりはるかに少ないです。	堆肥化施設（残さい処理工場）を併設または同じ敷地内に整備することは、面積が不足すると考えられることや、事業費が大きくなること、堆肥化施設自体には国の補助等もないことなどの理由から難しいものと考えておりますし、実際に県内においても併設または同じ敷地内に整備している例はないところです。 なお、家庭から排出される生ごみの減量につきましては、生ごみを減らすだけでなく、堆肥として有効活用することができる電動生ごみ処理機やコンポストの購入に対する補助金額を令和5年度から増額するとともに、コンポスト等でできた堆肥の使い道がない方については、堆肥の受入事業として一定量以上の堆肥をクリーンセンターへ持ち込まれた方にのべおかCOINを進呈し、受け入れた堆肥は植物園等での利用を行うなど、これまで以上に生ごみ排出量の減量に取り組んでいるところです。
18	私が意見を述べさせていただきたいのは、「燃やすごみの大規模改修」の部分にぜひ組み込んでほしいことについてです。宮崎市の「エコクリーンプラザみやざき」を利用した息子について行ってみました。「ペット火葬」をしてくれるということで。延岡にもこんな施設があったらいいのにとずっと思っていました。亡くなったペットの火葬をごみと一緒に燃やすのは抵抗があります。都会から引っ越してこられた方など、クリーンセンターで火葬してくれないのに驚いていました。（「エコクリーンプラザみやざき」に）私もお願いしたいと思ったら、「宮崎市、国富町、綾町在住のみ」とのこと。とても残念でした。 今回建替改修工事にぜひ宮崎市のようなペット火葬ができるのを組みこんでいただけないでしょうか。子供の数よりペットの数が多い現状、動物愛護法改正で終生飼養等が義務づけられました。皆さん困っておられます（私も含めて）。この機会に組み込んでいただけたらと思い意見書の提出をいたしました。	宮崎市の「エコクリーンプラザみやざき」ではペット専用の火葬炉によりペット火葬を行っておりますが、県内の他の廃棄物処理施設では、本市と同じく一般廃棄物と一緒に焼却炉で焼却されております。 今回の基本方針では、清掃工場については現施設の改修による強靱化と延命化を行う方針としており、大規模災害への備えや安定したごみ処理を継続するために特化した必要最小限の整備としております。 ご意見いただきましたペット専用の火葬炉を新たに設けることについては、事業費も大きく、国の交付金の対象外になるため全額市の負担となり、市財政への負担が大きくなること、また、建設スペースなどの問題により困難と考えております。 なお、本市内には、民間のペット用火葬施設もございますので、これまで一般廃棄物と一緒に燃やすことに抵抗があるとお問い合わせがあった場合には、そちらの施設をご案内しているところです。ご理解を賜りますようお願いいたします。	